

ローカル大阪経済



ソーシャルメディア対策を講じるスタッフら

株式会社エーディーシー



正田忠明社長

■代表者 正田忠明
 ■所在地 大阪市淀川区西中島5
 の14の10サムティ新大
 阪フロントビル4F
 ■資本金 1000万円
 ■従業員 20人
 ■電話 06 (6101) 1313
 ■URL <http://www.adc-system.co.jp/>

匿名掲示板やブログ、ツイッターを利用して誰もが簡単にネットで情報発信ができるようになった。企業にとっては誹謗(ひぼう)中傷や事実無根の虚偽情報、機密情報の漏えいに常にさらされている。誹謗中傷対策サービスを手がけている「エーディーシー」(大阪市淀川区)には、被害企業からの相談が激増している。

ネット風評から企業守る

自社サイトを検索トップ画面に

よい情報の 発信態勢整備



虚偽内容一人歩き

検索エンジンが情報収集のツールとして認識されている現代、企業に興味を持つ人は、インターネットブラウザに直接、企業ホームページURLを入力するケースは少ない。

正田忠明社長(42)は「必ずキーワードやファボの検索エンジンの検索窓で企業名で検索して、検索結果から企業情報を収集していきましょう」という。

検索エンジンで表示されたネガティブサイトの内容は、クレームによる全くの虚偽内容の悪評サイトであっても情報が一人歩きすることになる。そんなマイナス情報が検索トップ画面に出てしまったり、企業イメージが

ダウンするのは必ずだ。

検索エンジン解明 ネット上に回り、頻りにそのネガティブサイトが更新されることで、キーワードはより高いネガティブサイトを与えるという「負の連鎖」を繰り返す羽目になってしまった。

正田社長は「検索エンジン大手キーワードが検索結果を順位付ける要素はサイトがネット上に出現した時期やサイトの更新頻度などが大きな要素。そのほかマル秘ですが、独自に解明しています」

報を発信する態勢を整える。「トップ画面を自社サイトで占めることで、必然的に他の悪評サイトを押し下げることになる」という。

著に増え、風評被害につながるネット情報の対策要請は激増。正田さんは「今ではソーシャルメディアの運用実績は200社以上。1日当たり20〜30件の問い合わせが寄せられている」と話す。

書き込みを監視 今、世界では検索サイトのキーワードより交流サイトのフェイスブックなどのSNSの中から情報を探そうという人が増えている。このため、正田社長は、SNSの中の書き込みを監視し、悪い情報を見つけたら、企業に伝える事業に力を入れている」と話す。

(大山勝男)